

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月27 日

【評価実施概要】

事業所番号	3471502447		
法人名	佐々木産業有限会社		
事業所名	グループホームあけぼのあゆみホーム		
所在地 (電話番号)	福山市曙町五丁目5-25 (電話) 084-954-5704		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成20年4月25日	評価確定日	平成20年5月20日

【情報提供票より】(20年4月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 18 人, 非常勤	人, 常勤換算 14.4

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> /改築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 一日の食事代に含む
	または1日当たり	1,160 円	

(4) 利用者の概要(4月7日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 84.4 歳	最低 74 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クリニック和田・楠本病院・橘高歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「あけぼのあゆみホーム」では、開所以来約6年になるがその間には運営推進会議にも見られるように多くの地域の方々との交流や協力体制の構築と、利用者及び家族の方々への支援は事業所全体で指針を明確にされながら取り組まれている。全職員は利用者の方々への想いを込めて、これからの人生をゆっくり、ゆったりと歩いて欲しいからの願いを实践するために、常日頃から共に暮らす同士として喜怒哀楽を共有し、利用者のペースを尊重しながら、例えばホーム内の菜園での野菜作りや、掃除等の日常生活の中で一人ひとりの力に合わせて、利用者が決定する場面を再現しながら具体的に作られるなどの支援が行われている。これらにより利用者の方々の尊厳の保持と、日々のその人らしい暮らしの支援の中で、居心地の良さを感じられている様子が伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では特に主な改善課題はなかったが、その後の取り組みとしては地域との交流及び連携については運営推進会議などを通じてこれまで以上に推進されており、その結果として日常的なつきあいの他に、地域やホームの行事などの参加を通じての交流が一段と深まったようである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、全職員で自己評価には取り組まれており、その結果を踏まえて改善に向けての方向性を全員で話し合いながらサービスの質の向上につなげられていく姿勢が伺えた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は定期的開催されており、所轄の行政担当者や地域包括支援センター及び町内会長など多くの幅広い立場の人の参加する会議とし、多くの率直な意見を得ながら、地域への理解と支援を得るための貴重な機会とされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 常日頃から、全職員は家族等と顔の見える関係作りと、何でも言っただけの雰囲気作りや留意し、また、家族等からの要望や意見等は発生要因や改善に向けての取り組みをミーティング等で話し合っ、家族の立場に立って詳細に説明を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開所以来事業所は地域の一員として、地域との交流の促進を積極的に推進されており、このことにより地域の理解と支援が得られ、また、近隣の方や子供達がホームに立ち寄りやすくなるなど、地域やホームの行事の往来も数多く見られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には、地域密着型サービスの役割を理解した上で、果たすべき役割を反映したものに作りあげられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時や、ミーティング及びケアカンファレンスの際には必ず理念に触れながら、ケアについての意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所の方が立ち寄り、子供達が遊びに来たりする関係が作られており、また、地域の行事やホームでの行事にも行き来の出来る関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所全体で、自己評価及び外部評価の結果の内容に取り組みされており、その結果をサービスの質の向上に活かす姿勢が伺える、		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、所轄の行政担当者や地域の方々等が多く参加されており、事業所からの報告等に対しては参加者からの意見や要望等を率直に受けながら、改善に向けた内容になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議等を通じて所轄の行政担当者には、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、関係作りと協働関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には声をかけをし、利用者の事業所での暮らしぶりや家族の状況及び職員の異動などについて話し合っている。また、他には電話等で様子も知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から得られた意見等を、前向きに受け止めてサービスに反映させていく姿勢が伺える。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から可能な限り各ユニット毎の利用者と職員が顔見知りになるような機会を設けながら、顔馴染みの関係づくりに努めている。また、やむを得ず職員が異動する時には、引き継ぎの期間を十分に取るなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修には、出来るだけ多くの職員が受講できるような機会を設け、また、研修報告は全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催されている、グループホーム協会の研修に参加し、そこでの事例検討等を通じて質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等と十分話し合いながら、本人と家族等にあった個別の利用開始の調整を行いながら、安心と納得を大切に利用の支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの言動からわかり合えること、支え、支えられることを日常の中で作りながら、支援に努められている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思い・暮らし方の希望、意向の把握に努めながら本人の視点に立って支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の視点にたって地域の中でその人らしく暮らし続けるための、必要な支援を盛り込んだ個別の介護計画となっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族等や関係者のその時々気づきや意見を最大限反映させながら、臨機応変に介護計画を変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等と相談しながら、利用者それぞれのかかりつけ医と話し合いや情報のやりとりを通じて、関係を築きながら支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う事業所としての方針を定め、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、家族・医師・関係者等を交えて話し合いを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング等の機会を捉えて、プライバシーの確保と個人情報の取り扱いについての徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は常日頃から本人が今日をどう過ごしたいか、一人ひとりの日の望みをすることを体制にし、それに応じて柔軟に支援するように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で育った野菜を利用者と一緒に採って来て、これらを食材に使用して調理をするなど、利用者と職員が同じ物を一緒に手食べるなどしながら食事を1日の大切な活動の一つにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入居前の生活習慣や、その日の希望や状態に合わせて柔軟な入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	常日頃から、利用者一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけながら支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩や買物等だけではなく、その日の利用者の状態や有する力、希望などその時々状況に応じて、一人ひとりが外出を楽しめるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さについて認識しており、日中は見守りや連携プレーを徹底しながら鍵をかけない暮らしを支えている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は地域の消防署の協力を得て災害訓練などの指導を受け、また、地域の災害訓練にも参加するなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の専門的な観点からチェックをしてもらったり、一人ひとりの一日を通じた食事量・パラセンス・飲水量の確認を行いながら支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良さや心身の活力を引き出すために、生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を整えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使い慣れた日用品や、仏壇等が部屋に持ち込まれ、安心して過ごせるような配慮がなされている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームあけぼのあゆみホーム

評価年月日 平成20年 4月 10日

記入年月日 平成20年 4月 10日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 ホーム長 氏名 吉仲 禎恵

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	入居者が日々の生活に満足していただくための運営基本理念を定めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営方針や目的等を職員に浸透させる取り組みとして、会議の場で日常的に話している。又、基本理念については毎日朝礼で唱えている。		会議、ケアプラン等の話し合いの中で、理念の共有ができているか、又できるように努めている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域包括支援センター及び町内会長・民生委員等と会議を開催し検討を重ねている。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	管理者、職員が地域に出て交流し、コミュニケーションのとれる場所に積極的に行くようにする。		今後も努力して行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事には参加させてもらっていますが、関係を深める働きかけはできていない。		高齢のため少々難しいが、できる限り支援したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	介護相談の呼びかけをしている。		地域の高齢者の役に立つまでにはなっていないが、今後根気よく相談できるように努めたい。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の結果は職員に周知し、常に向上心を持ち、よりよいホーム作りに生かすよう努めている。		今後も努力して行きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	外部評価と取り組みについての説明・報告し、ホームに掲示し、いつでも見ていただけるようにしている。推進会議でも意見をいただいている。		今後も多くの関係者の意見をいただき、参考にしていきたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市からの情報提供や相談など、指導を受けるように心がけている。		これからも市との連携を取り勉強していきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	運営者、管理者、職員が共に勉強会を持って、必要な方には活用できるよう支援していきたい。		取り組むように努めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	学んだことを職場で生かすよう、常に現場で気をつけるよう指導している。		日々生活の中で起こらぬよう、指導していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約に際しては十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		これからも続けていきたい。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の意見、不満、苦情があればできるだけ実現するように努力している。		続けて行きたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理については面会時や電話で報告している。 職員の移動については、面会時に報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	推進会議の場や、ホームに来られた時、できるだけ会話し、話しやすいように心がけている。		お話をすると、思いを少しずつ話してくださるようになったので、できるだけ話すように努めたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関しての意見を職員会議に出し、検討している。		職員の声に耳を傾けたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて勤務調整を行っている。		これからも続けていき、要望に柔軟に対応したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>ユニットごと職員の異動をできるだけ最小限に抑えるよう努力し、異動するときは動揺がないよう、配慮するように努めている。</p>		<p>ユニットの職員の異動について、利用者の動揺のないよう考えている。</p>
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の資格取得対策(3割程度) ・ケアマネジャーの計画的研修体制 ・実務研修の全員受講 ・事業者研修 		<ul style="list-style-type: none"> ・全員受講計画策定 ・受講者の終了後職場定着対策
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協会の研修会でホーム長、ケアマネなど出席して実技講義の両面で研鑽に努めている。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループホームとの職員相互研修 ・同業者と協議会を設け、課題研究、研修会議の開催。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は月1回職員会議で、悩みを聞くが不十分である。 ・ヒヤリハットを申し出てもらい教材化する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・横の関係を重視する為、何回かに分けて懇親会を設けたい。(仕事に関係のない話がよい)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得を給与に反映する体制をとっている。 ・小額であるが、定期昇給を実施。 ・研修、受験時の勤務計画に配慮。 ・期末勤勉手当の実施(年3ヶ月) 		<ul style="list-style-type: none"> ・研修出席者による職場研修の充実 ・期末勤勉手当の充実
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>本人をふまえて家族の方と、十分に話し合う機会を設定している。家族の方が来所されたときも同様です。</p>		<p>本人が心地よく過ごせるよう、困りごと、不安なこと、求めていることなど確認し、受け止めるよう努力している。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談・利用に至り、一番求められていることなど利用者に安心できる説明ができるよう、努力していきたい。		これからも努力して行きたいと思っている。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まず良く話し合い、ニーズを捜し当面必要と感ずることから始める。その後は、他サービスも含めて考える。		「その時」がひとつではないのでいろいろな場面を想定し支援する。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	当面は本人の思うまま動いていただいて、それに職員がフォローし、早く馴染んでいただくように支援する。		職員は常に気配りし、利用者のニーズを見極め早く馴染んでいただけるように気をつけ注意し、支援するように努める。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活の中で、喜怒哀楽を共有しながら時には、しかり、しかられ、助け合いながら学んでいる。		日々共に支えあい、喜怒哀楽を共にし、互いに相手を大切にしていきたい。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人を支える家族との関係が共有できるような連絡をとりながら支えていく関係を日々築くように努めたい。		日々よりよい関係を作るため、努力していきたい
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族を面会時に、本人と家族がよい関係を保てるように助言している。		毎回家族の方が来所されたとき、利用者の生活報告やコミュニケーションを取るように努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>なかなか馴染みの人や場との関係継続は難しい。来所されると交流の支援には努めている。</p>		<p>来所された方々については支援に努め関係継続を支援している。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者が一人孤立しないよう気をつけて利用者同士が仲良く助け合えるように支援している。</p>		<p>これからも気をつけて見守りし、支えていきたい。</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>サービス利用後の関係作りは充分でない。</p>		<p>これからは、利用後の関係を考えていきたい。</p>
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>暮らし方の希望や意向がはっきりとしている人が少ないため、日常的な活動に参加してもらったときの様子を観察し、把握に努めている。</p>		<p>状況に合わせて柔軟に対応し、これからも把握に努めたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>生活歴等は介護に生かし、入居時の経歴で不十分なところは家族等から話を聞き、参考にしている。</p>		<p>話されている内容からくみ取って把握していく。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>一人一人、その方に応じた一日を過ごしていただくよう、日々努めている。</p>		<p>今後とも続けていく。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員間は日々のケアや会議を通じて話し合いをしているが、家族との意見交換が充分でない。		家族の意見も反映させ、検討し、計画を作成していきたい。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に変化がなくても最長3ヶ月に1回介護計画のみなおしをし、入退院など急な変化のある時は、その都度改めている。		今後も続けていく。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録とは別に、日勤帯、夜勤帯に分け申し送りも記録し、情報を共存するようにしている。記載漏れや申し送り忘れなどで情報が十分でないことがある。		情報をきちんと記録し、状況や状態の把握に努め、実践や計画の見直しに活かしていきたい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	多機能が出来ると色々考えていきたい。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。			消防・警察への働きかけ、又ボランティアの活動についてもお願いしているが、改善できていない。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他の事業者と交流し、他のサービスが利用できるよう支援していきたい。		必要性に応じて他のサービスも利用していただくよう勉強していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	充分の活動ができていない。交流を深めていくように努めたい。		交流を深め勉強していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者の状況に応じて相談・指導を受けながら支援している。		今まで通り連携していく。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医との連携はできていたが、転居のため、現在は連携医に相談し、専門医を紹介していただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	考えているがまだできていない。		専門職として常にしてもらいたいと思っている。
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合、随時連絡をとり状況を把握し、よりよい医療が受けられるよう支援している。		これからも努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>ホームの方針を伝えるように基準を考え、一応方針ができた。重度化や終末期の対応は医師、家族等と話し合い方針を決めるよう家族に伝えている。</p>		<p>これからもよりよい対応に努め、理解していただくよう努力したい。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医師と相談しながら「出来ること、出来ないこと」を伝え、理解していただくように努めている。</p>		<p>医師と相談しながら今後変化に備え、正しい見極めができるよう勉強していきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>入居時は本人の関わる必要なことについては関係者等の訪問、退去時には関係者、家族等に提供するようにしている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>一人一人のプライバシーに配慮するよう介護や記録、個人情報など大切に扱っている。</p>		<p>これからも注意し、配慮したい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人一人の思い共感するため、わかる力に合った説明をし、納得して暮らせるよう支援する。</p>		<p>自分で決めたり、納得して行動していただくため「貼り紙」をし読んで理解(言葉だけでなく)していただくようにもしている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>時々職員側の決まりや都合でペースを壊すこともあるので、注意しながら支援するように努めている。</p>		<p>利用者のペースを崩さぬように日々努力していきたい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月1回ホームにて希望者には散髪をしていただいている。誕生日にはお化粧などをし、喜んでいただいている。		今後も努めていく。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ノロウイルスなどで現場も消極的になっているが、手伝いたい人には準備や片付けをしていただいている。		調理等に積極的に入れるように考えていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の好みを探し、できるだけ皆に合うよう心がけている。お酒、タバコについては考えていない。		充分でないので、取組んでいきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おむつの利用を減らし、定期的に誘導し、習慣付けを支援し取り組んでいる。		今後も続けていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴を試みていたが、体力的に衰えが見られ、週2回又は1日おきと体調を見ながら行っている。他の日は清拭をしている。		一人一人の体調、希望に合わせて、支援している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の習慣や状況に応じて声掛け、休息していただくように気をつけて支援する。		できるだけ昼寝等を取れるよう支援している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	入居者ができることは共に協力し合い、その人の役割を支援できている。		これからも色々と考え支援したい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	手元に金銭をお持ちの方がおられない。これからは家族と相談し、支援していきたい。		金銭の自己管理ができるかどうか見ながら家族と共に支援していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者が外出したいときは、できる限り希望に沿いたいが、介護現場のリスクを考えると充分でない。		可能な限り希望に沿い、支援していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族との外出、墓参りなど元気な方の家族には協力を呼びかけている。		これからも続けたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自己決定がある人は、プライバシーに配慮し支援できている。要求時には対応できている。		家族の方が電話をかけさせないようにと希望される方もあるが、先に介護者が必ず対応し、説明の上げ、協力していただくようにしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	笑顔でお迎えしています。自然にユニットに親しんでいただけるよう、心がけています。必ず湯茶、コーヒー等をお出しするようにしています。		これからも続けたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議等で研修しながら随時勉強をするように努めている。		これからも研修等に参加し正しい勉強をしていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関・居室も利用者の意思に任せている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	一人一人のケアプランを十分に周知し、その人の行動やプライバシーに配慮しながら支援している。		これからも利用者に事故がない安全なホーム作りに努めたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の目の届かない場所に保管し、利用後も早急に片付けるようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	介護現場のリスクマネジメントの取り組みをはじめ、職員会議、推進会議などで意見をいただき、取り組み始めた。		今後も現場と共に勉強したい。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	緊急時のマニュアルはできている。時々会議等で勉強したり地域の応急手当の講習会などに参加。		定期的に勉強し、スタッフが全員確実にできるよう続けたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	職員は災害の訓練等を消防署より指導をうけたりして研修している。地域の災害訓練などにも参加している。		地域からの協力が得られるところまでできていない。両方とも働きかけをしていくように努めている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	一人ひとりのリスクについては、ケアプランに沿って説明し、理解していただくよう努力している。		これからも続け、理解していただけるよう努力したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々検温、脈拍、血圧等チェックして異変の発見に努め共有し、関係医師の指示を得て対応している。		一人一人の変化に気づくよう、日々注意しながら介護に取り組むよう指示している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の間違いのないように確認に努めるようユニット会議にて話し合いをもっている。		これからも勉強し、よりよい対応ができるように取り組んでいきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェック表に個人の便間隔をチェックしている。水分量や食事量などに気をつけている。		水分については必ず飲んでいただくように努め、確認している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一日一回は口腔ケアを行っている。又は入れ歯の確認・洗浄に取り組んでいます。		口腔ケアが自力でできない利用者には「かんでん茶」にて毎食後、口腔ケアをしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	メニューは栄養士が考え、栄養バランスはとれている。水分摂取量は職員がチェックをし、1日分摂取量を把握している。		利用者の残存機能を作っただき、時々はお手伝いをしていただいている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	消毒、手指、ドアノブ、手すり等の消毒の実施。ノロウイルス等の発生時は家族の方に協力していただき(持ち込みなど)予防に努めている。		インフルエンザ予防接種は行っている。感染予防に向けてマニュアルを決め対策している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後容器の殺菌消毒を行い、食材には注意し残さぬように努めている。		これからも注意し安全管理に努めるよう、支援したい。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関・建物周辺は出入りがたやすく安心である。庭に木や花で家庭的雰囲気作りを心がけている。		一年を通し花のあるホームにしたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	派手すぎず、飾りすぎず、家庭的な雰囲気を目指している。		季節の花を入れたり、食物(おはぎ、柏餅)等またりピンクには手作りカレンダーなど利用者と共に楽しんでいる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳コーナー、ソファ、ウッドデッキ等、自由に利用でき、利用者のコミュニケーションの場となっている。		これらも支援していきたい。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭で使っていたベッド、椅子、仏壇等、持参していただき、安心していただけるよう配慮しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除の時には窓を開けて空気入れ替えをし、その日の気温により快適な湿度調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	滑り止めの床、手すりの設置、浴槽内の滑り止めマット又は、ホーム内はすべてバリアフリーの造りで、安全に生活できるように配慮しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	洗濯物の整理、居室の掃除等できるだけ一緒にし、自立ができるよう支援している。		これからも支援していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	リビングより、庭や外に行くことができ、草取り、花、野菜の手入れができる。		